

中齋塾 東京フォーラム
平成 24 年度第 10 回

平成 24 年 12 月 8 日

於 湯島聖堂

おはようございます。

先ほど代表幹事が、金鷄神社の社稷祭で安岡正篤先生の娘さんである伊藤節子さんが講演された事についてお話をされました。今、隣の教室では安岡定子さんが論語を子供さん達に講義をしています。安岡定子さんはひとつ下の世代ですから、正篤先生のお孫さんにあたります。

伊藤節子さんがお話になったもので、なるほどと思ったのが二つほどありました。

一つは、安岡正篤先生は小歌が実に上手で、「大石内蔵助」などはちまたで素晴らしいと言われていますが、その素晴らしさを支えたのは私ですとの事。何のお話なのかかなと思っていたら、皆様が御座敷で一通り喉を披露した後で父が歌いますと、シンとした声が出て素晴らしいと賞賛されていました。それは自宅で一生懸命に練習していたからだとのことです。自宅で練習する時に御手本のテープをずっと聞いて練習をしていましたが、父は機械が全くいじれない人なので、一通り聞いた後にテープを巻き戻すのは私の係で、私はいつも早く終わらないかなと思いつつ傍にいましたので、私が支えていたという話でした。

もう一つ、私は家内に「もう少し人様に頭を下げるという事を覚えれば、会社ももうちょっと大きくなったのでは」と言われまして、同じ様な事を伊藤節子さんも話していました。父は「人に頭を下げなければ、良い人生が送れる。人に頭を下げるのは地位や名誉、お金が欲しいから頭下げざるを得ない」という様な事を言っておりました。正篤先生は東大を卒業して文部省に勤めたけれども、数カ月で辞めました。その後は全然勤めませんでしたから、娘の立場でみますと「定職・定収がないので、母は相当苦勞した事だろう」と仰っていました。確か、定子さんの書いた本だったと思いますが、「お祖父さんが、「美味しいものを食べに行こう」と言い出したから家族は喜んでついて行き美味しいものを食べて、さあ帰ろうという時に、正篤先生は「帰るぞ、金？誰か払っておきなさい」となり、お祖父さんはお金を持っていなかった事が分かり長女・次女慌て、みんなしてお金を集めお支払いをして帰ったとありますから、正篤先生はお金勘定が出来ない人でした。御本人は「餞別など出さない、又は、食べに行こう」と言われて周りの人が相談して後片付けをする。それは何のことはない本人が人に頭を下げたくないというのがベースであるので、金・地位・名誉はいらないとやっただけの事なのでしょう。周りは苦勞したのだと思いますが、頭を下げたくないという所に、私は共感を致しました。でも、少々周りを考える必要があるなど、最近私は反省をしております。

紹介書籍

『いつまでも若々しく生きる』中村天風述 島中俊次解説 日本経営合理化協会出版局
何回か申し上げておりますが、天風先生は非常に良い事を言っておられます。分厚い本で高価ですが、宇野千代さんの文庫版もあります。

天風先生の健康についてのものの考え方は、よいなと思います。

昨日、中齋塾の法人維持会員さんの所へお邪魔をしました。そこは以前「素心不器会」という勉強会の後押しをしていましたが、今は「安岡活学塾」の応援をしています。その会長さんとお話をしていて、私は「健康法をしていますか？」と尋ねましたら、「していません」という返答でした。「仕事が忙しくどうにもならなくて中々できません。歩こうとは思いますが歩けません」と、おっしゃるので「それでは簡単なことを一つだけお教えします」と言いましたら、「是非に」との事でした。

中村天風先生の本を読んでいますと、天風先生の午前中は自分の健康法にあてています。その中で私が良いなと思ったものがひとつ有り取り入れています。誰しも歳を重ねますと、つまずいて転びます。足を上げたつもりでも上がらず、ちょっとした段差でつまずいて転ぶ。防止をする為には「足踏み」をするという事です。天風先生は散歩をするのではなく、その場で足踏みをする。最初は普通の足踏みで良いのですが、慣れてきましたら段々高く上げていけば良いと思います。最終的には膝をお腹にあてる感じで、実行できればなお良いでしょう。時間はせいぜい5分~10分ぐらいですとお話しましたら、「それは実行できます」と言われました。人というのは、「実行します」と言っても中々できませんから、帰り時のエレベータの前で見送りに会長と副社長が来られたので、その少々間に「今、会長さんに健康法をお話して「やる」と言って頂いたので、どうか監視をして下さい」と副社長にお願いしました。

最近、私は幹事訪問という事で幹事さんの所へお邪魔しておりますが、お邪魔をすると色々見えてきます。

ある幹事さんの所にお邪魔をした時に、受付の対応挨拶が良く、にこやかだったので少々余計なことを言ってみました。「あなた方は日本人ですか？」と尋ねましたら「はい」と返事があったので、「日本語以外の御挨拶はどうしますか？」と聞きましたら、韓国語と中国語の挨拶がポンポンと出てきました。そのような対応がずっと出来るのは良いなと思いました。

また別の幹事さんの仕事場にお邪魔をした時に、奥様と娘さんが迎えてくれたのですが、奥様から面白い挨拶をされました。お会いをしましたら、「いらっしゃいませ、今日は家庭訪問でしょうか？」と、また「学校では子供がどういう風に過ごしているのか先生が家庭を見に来てチェックをし、その子供さんが健やかに家庭で育っているかを見に来ます。今日は塾長さんが塾生の家庭訪問にみえたのでしょうか？」と聞かれましたので、「はい、そ

うです」と答えました。帰る時には「家庭訪問の結果合格です」と伝えて失礼致しました。

色々お邪魔しますと見えてきます。夫婦でしたら仲が良いかな悪いかなと、会社の場合には伸びるか伸び悩んでないか、資金繰りは大丈夫かな、近未来のことを考えて手を打っているか、何かアドバイスをする事があるかないかと、余計な事がすぐと浮かびます。

恒例の質問

今年一年間で考えましょう。

- ・嘘は比較的つかなかった年、嘘とは縁がない年だった方？
- ・今年一年間で「有難う」という言葉が素直にできましたか？また一年間でよく「有難う」と言われた方？

- ・今年一年間で健康法を実践した方？

先ほどの話と重なりますが、一日 5 分・10 分でも良いですから、何かなさると良いでしょう。

- ・明日を過去形でイメージして眠れた方？
- ・今年一年間振り返って頂いて、良い年だったと理屈抜きに思える方？

首を傾げた方は、まだ 1 カ月弱あります。終わり良ければすべて良しという事で、後半戦逆転する事もできます。渋沢栄一は数えて 92 歳まで生きました。84 歳の時に出した本で、「人生は最後、晩節を全うすれば全て良かったといえる。従って晩節を汚さないように努力をしている」と書いてあります。河井継之助も大器晩成型で最後の三年半ぐらいで自分の人生を急上昇させて輝かせました。一生で見ても、一年の締めくくりでも見てもそうです。首を傾げた方は、逆転満塁ホームランが打てると良いですね。

論語解説 『先進第十一』

【一二】^{びんし} 閔子^{かたわら} 側^じ に持す。閔閔^{ぎんぎんじよ} 如たり。子路^{しる} 行行^{こうこうじよ} 如たり。冉有^{ぜんゆう}・子貢^{しこう}、侃侃^{かんかんじよ} 如たり。子^{したの} 樂^{ゆう} 楽しむ。由也^{ゆうや} の若^{ごと} きは、其^そ の死^し 然^{しか} るを得^え ざらんと。

孔子を囲んでお弟子さん達が和やかに歓談している所です。閔子騫が側に座ってゆったりくつろいでいる。子路は堅い雰囲気です。冉有や子貢は和やかな雰囲気です。その楽しい中で孔子が子路についてちょっとからかった「子路は何でそんなに肩肘張っているんだい？そんなに肩肘張っていると畳の上で死ねないよ」という科白を言った。子路はどう答えたかは分からないけれど、私のイメージでは、「先生そんな事を言ったって私は持って生れた性質がこうなのだから、作り笑いは出来ませんよ」と跳ね返す。そんな遣り取りが見えてきます。ちなみに子路は何度か申しましたけれど、戦で切り死にをしました。

死ぬ時には冠の紐をきちんと結び直して死にました。勇士だった為に敵方から勇士の肉を食べれば自分にも力が宿るといふ部分が古代にはあったので、なますにして塩辛漬けにして死後はズタズタに切り裂かれて甕に入れられました。それを孔子が聞き自分の所にある塩辛の甕を打ち壊してしまいました。やはり畳の上で死ねなかったという話しになります。

【一三】魯人 長府を為る。閔子騫曰く、旧貫に仍らば之を如何。何ぞ必ずしも改め作らんと。子曰く、夫の人 言わず。言えは必ず中ること有り。

役人が金銀財宝瑪瑙玉など立派な財宝を収める倉庫を作った。その時に閔子騫が一言「昔からのしきたり通りに作ることを尊重しなさい」と言いました。孔子が云うには「閔子騫は普段何も言わないけれど、しきたりを改めて昔のやり方を変えて新しいやり方で作る事はないだろうと言ったのは良い事だ。閔子騫が言うことは的に当たるので、尊重した方が良い。普段何も言わない人は、口を開いた時にはズバッと良いことを言う」と。普段から口が先に立たない方が良く自分でも考えましょう。

御自分も発言のチャンスがあった時に最初からポンポン言うのではなくて、最後にズバと言うと感銘が重くなります。

【一四】子曰く、由の瑟、奚為れぞ丘の門に於てせんと。門人 子路を敬せず。子曰く、由や堂に升れり。未だ室に入らざるなりと。

孔子はどうも子路のことを引き合いに出し気楽に物を言います。何か門人に考えさせた時には子路を例に出すことが多いですね。そういうことだから門人が子路を尊敬しない。孔子が言うには、「子路の琴の引き方のレベルはけっこう大したものだよ。表座敷には入っているが、ただ奥座敷に入っていないだけなので、もう一息だ。君達はまだ入り口にまで来ていないのだから、子路のレベルになるよう一所懸命勉強しなさいよ」と子路をフォローして言っています。孔子が子路に対して可愛がっているような感じを受け止めて戴くと良い。ひねった言い方です。

【一五】子貢問う、師と商とは孰れか賢れると。子曰く、師や過ぎたり。商や及ばずと。曰く、然らば則ち師は愈れるかと。子曰く、過ぎたるは猶及ばざるがごとしと。

子貢は優秀で金儲けも上手。孔子の弟子の中に子貢がいなければ、孔子はすぐ飢え死にしていたかも知れません。子貢が「師と商はどちらが上でしょうか」と聞きました。師は

子張で商は子夏。孔子は「子張はやり過ぎで、子夏は及ばない」。子貢がさらに聞いて「子張の方が勝っているのでしょうか？」と。孔子は「過ぎたるは及ばざるがごとし。どっちもどっちだよ」という答え方をしたと受け取って頂ければと思います。孔子は人によって言い方を変えています。

最近、北関東の中斎塾フォーラムに若い人が入会したのですが、その人曰く、「他の人に誘われて入ったのだが、論語の解説は難しそうと固くつまらないだろうと思った。しかし古典を現代に置き換えて話をするというのに新鮮味を感じてけっこう面白かったです」と言われました。

話は飛びますが、マヤ文明の創造神「ククルカン」という翼をもった蛇の神様がマヤの考えの中にあります。私は「ククルカン」というイメージをふっと思い出した時、白いひげで白い衣を着てスラーと立っているおじいさんのイメージがひょいと出たのですが、どこで見たのか一所懸命探したのですが見つからなかった。良く考えていたら、そういう文章を読んでいたことに思い当たりました。そうすると、文章を見てイメージが頭の中に焼きついたのでなという事に気がつきました。これは論語でもそうですが、論語を読んでいてその文章のイメージが、絵が、頭の中に焼きついてくる。そのような読み方をすると良いと思って下さい。

時事評論

一年の締めくくりとして御自分で今年の新聞を、1 民主党の無様な手、2 国債の動向、3 自然災害。ここら辺を御注意して見て戴きたいと言い続けて来た事を思い出して欲しいと思います。

私の手帳の事は前に申し上げたでしょうか？

一年の終わりですから少々申し上げたいと思います。手帳に書いてあるものは、東日本大震災の起こる2年前の平成21年11月18日のメモ内容です。東日本大震災の年・平成23年辛卯（しんぼう・かのとう）は、酷く辛い年で不況が続き、たくさんの方が死ぬ年と書いてあります。

他にも申し上げますと、平成24年壬辰（じんしん・みずのえたつ）はニューリーダーは続々登場するが力なし。どうにかリーダーは誕生したけれども、ヘドロを自覚する年。

平成25年癸巳（きし・みずのとみ）は、将来を見通した新興勢力が生まれる。理想に向かって強く進むけれども…癸巳だからヘビが目覚める年。従って新興勢力が台頭してくる年。

平成26年甲午（こうご・きのえうま）は伸び悩む。甲とは殻を破って芽は出て来ているけれども、なかなか進みづらい。午は反対勢力が力を持っている。従って再来年は全体的に伸び悩む年。

平成 27 年は乙未（いつび・きのとひつじ）。乙ははじめをつける年だが、草木の芽は屈曲する。未は良くない事を思いきって払いのけなければいけない。新興勢力の連中が必死になって進もうと腹をくくる。決断をする年まわり。

平成 28 年丙申（へいしん・ひのえさる）は、丙は生命力が盛んでどんどん成長してゆく。申はどんどん伸びる。やっと新興勢力が発展してゆくのが見えるし、本人達もその通りになる。

平成 29 年丁酉（ていゆう・ひのととり）は、丁は新旧勢力が衝突をする。酉は新しい勢力が爆発をする。従って新旧の交代が起きる。旧勢力は終わる。新しい勢力が爆発して、新勢力が実権を握る年。従って平成 29 年はぐんぐん良くなってゆく年。

干支は一つ一つの細かなものをみるのではなくて、時代の流れを見るのですから、時代の流れを 10 年間のスパンで見てゆくと、今後の 5 年間はかなりドロドロしてすったもんだをやりますが、5 年後の平成 29 年に今生まれているもの、これから生まれてくるもの全部ひっくるめて日本の進むべき道が、確実に見えて進み始めるという実感が起きる。個人個人もそのような動きが出来る。そう思って頂いて良い年まわりになる。という事が平成 21 年に手帳に書いてございます。

これからの 5 年間で、私は「黎明」と捉えています。黎明は夜明けという意味です。

そういうことを踏まえて今日の新聞を見ますと、読売新聞の一面、また朝日新聞で、パッと目を引くのがこの二紙でした。朝日新聞は昨日の地震津波で 1 メートルの津波で 2 万 6000 人が避難をした。この間の大震災はマグにチュード 8 の余震で、とにかく逃げろという教訓が活きたとありました。天声人語に 71 年前の今日は「真珠湾を奇襲した日」であるとありました。それから核の保有について、佐藤栄作が首相の時に日本は核を持つという研究をしていたが、アメリカがそれにストップをかけたので核を持たなかったというのが残っています。そこまでは今日の新聞には書いせんが、石原慎太郎は核の保有についてちょっと触れていました。リーマンショック以降初めて内閣府が景気判断して「下方」から「悪化」という文字に変えたという一面に載っていました。朝日新聞はなかなか構成がよいなと思いました。時代を捉えているし悪くはない。ただ基本的な物の考え方については、私は悪いと思っていますが、でも取り方は良い。そういう意味で民主党の討つ無様な手、国債の動向、自然災害。多少入っていると感じます。

読売新聞は国家公務員法違反で起訴されているものは無罪になった者もいるし、有罪になった者もいるという書き方です。ちょっと世論を誘導しようとしている意図が見えます。ここは少々危険だなと思います。ここら辺をみて私が感じるものは、今選挙で政治家の無様なことよ、小沢さんは小沢新党を作ってから、民主党のコピーを始めた。これはけしからんものだなという感じがします。そうしますと「騙されないで」という風にも思いました。

本日のテーマ「視・観・察」というものの見方で見て戴くと、選挙戦が透けて見える。その透けて見えるものが御自分の心の中に生れて来れば、見方がどんどん良くなってきた

のだと感じて結構です。争点は、消費税、年金、医療、原発、いろいろ争点はありますが、全部見て良しとするのではなくて、自分が一番気になるものの話題をベースにして、それぞれの政党の判断をし投票するのが良いと思っています。全部によかれというのは無理です。何かひとつだけ選んで判断基準にされるとよいと感じます。時代は大きく動いています。各国の指導者はドンドン交代した年です。日本も交代をするのは当たり前のことです。

判断基準をいくつも持たないで自分で判断をする時にはこれでいくというものを一つだけ決めて判断すると良い。

ぜひ来年は良い年にして戴きたい。良い年というのは自分自身が充実した年、なおかつ自分自身が判断基準を以て実行する年。そういう意味で良い年にして戴ければと思います。